

# ふれあい

平成23年 3月 第300号

大代地区コミュニティ推進協議会  
(広報部)  
事務局：大代地区公民館  
☎364-8442

## 〈掲載目次〉

- 振り込め詐欺被害に遭わないために・・・1
- 会報「ふれあい」三百号達成・・・2
- 気をつけましょう・・・2
- 「冬来たりなば春遠からず」・・・2
- 多賀城市東部地域包括支援センターより・・・3
- 大代の歩み(三十六)・・・3
- 大代地区公民館地域拠点化計画について(六)・・・4
- 大代地区公民館まつり・・・4
- ふれあい俳句・・・4

### 振り込め詐欺被害に 遭わないために

大代西町内会長 伊藤 要

最近、社会問題になってきている振り込め詐欺被害が新聞に載らない日はありません。県内で2010年にあつた振り込め詐欺の被害額は、前年より1億3510万円多い2億5240万円、被害件数は184件で前年より58件増えました。被害額は全国ワースト6位、被害件数はワースト7位だったそうです。手口別では、おれおれ詐欺が101件、被害額1億6060万円、件数は前年の3・7倍、被害額は6・4倍と急増しました。

「被害者の8割以上は振り込め詐欺のことを知っているが、いざ電話がかかってくるとだまされる」というデータがあります。

多賀城市老人クラブ指導者研修会時に「振り込め詐欺被害から身を守るために」と題して県警察本部犯罪抑止対策室佐々木課長補佐から講演冒頭に「振り込め詐欺被害に私は絶対遭わないと言う人は手を挙げてください」と言われ参加者の多くの方がハイと元気よく手を挙げたところ、講師はハイわかりましたと言った途端、手を挙げた皆さんが一番被害に遭う確率が高い方々ですと言われ爆笑した一幕もありました。昨年県内で被害が目立ったのは、息子を装って送金を要求する「おれおれ詐欺」。

また、警察官や金融庁職員を名乗る者がキャッシュカードを詐取し、そのカードで現金を引き出す手口も多く発生しました。

振り込め詐欺が社会問題となつてかなりの年月が経ちますが、犯罪の内容を知つていても、自分は無関係だと思つている人が多く、また被害に遭わない自信と、自分は大丈夫と思つてもだまされてしまう実態があります。

先日、私のところにも「顧客データが流出しているので預金通帳を確認します」という電話がありましたので、とつさに振り込め詐欺の手口かと直感して、どこの銀行か、口座番号は何番かなど逆に私から聞き返したら、先方は私の言うことに返答してもらえればよいということなので、私は、大代のズーゾー弁で「なんだったら、さつさとしゃべれ」と言ったら先方は言葉の意味が分からず、ハアアと言つて電話は切れました。振り込め詐欺を身近に感じた出来事でした。

まさか？自分が振り込め詐欺の対象に・・・  
突然、電話やメールを送りつけてきて、冷静な判断ができなくなった「心のスキ」を狙つてお金をだまし取つていくのが「振り込め詐欺」です。

「わたしは大丈夫」と思つていませんか？被害に遭わないためには、日ごろから手口

や対策を知っておく必要があります。

※被害に遭わないために

始めにウソか、ホントか見分ける心を・

1 名前や会社名、住所などを聞いても詳しく教えてくれない

2 「すぐ振り込んで」と急がせる

3 家族に相談しないよう要求する

4 恐喝まがいの暴言を吐いたりして脅かす

対策として・・・

1 我が家の恥などと思い、一人で解決しないこと

2 自分から先に息子や孫などの名前を言わず相手に名乗らせる

3 本人かどうか確認するため、家族しか知らないこと(名前・住所・年齢等)を聞く

4 一旦電話を切って、必ず自分の知っている電話番号で本人や家族と連絡をとり、事実を確認すること。

5 「電話番号が変わった」と言われたら、元々知っている電話番号に電話して確認してみることに

※振り込め詐欺被害が減らない理由のひとつに「自分だけは、絶対にだまされたい」という考えがあります。今後も巧妙化して新たな手口で次々と狙ってきます。

## 会報「ふれあい」二百号達成

広報部長 佐藤 聰子

多賀城市では昭和六十一年より地区単位に新生活活動を展開することになりました。そんな折、大代四区(後に五区になる)では何を運動とすることを検討の結果、地区内に会報を発行してその会報を介して運動の一部を紹介して参りました。

この会報「ふれあい」は毎月一回発行してきましたが、今回の三月号の発行をもって三百号となり、実に二十五周年を迎える運びとなりました。

初刊以来今日まで継続して発行が出来たのも、ひとえに地域の皆さま方のご支援とご協力の賜と深く感謝いたす次第です。

二十五周年を迎えるにあたり「ふれあい」広報部員一同決意を新たに一層邁進して、地域発展の一助になるよう頑張つて参りますので何卒引き続きご投稿、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 気をつけましょう

大代地区婦人防火クラブ

会長 後藤 重子

三月一日～七日まで春の火災予防週間が始まります。私たち婦人防火クラブにより、皆様のお宅に火災警報器設置をお勧めして三カ年が経過いたしました。

昨年は、宮城県条例により設置が義務づけられております。お宅の警報器はうまく

作動していますか。いざという時のために、自宅で試験してみてください。万が一、不具合がある場合には、遠慮なくお近くのクラブ役員に申し出ていただければと思います。

また、三月十二日(土)～十三日(日)に開催されます大代地区公民館まつりにて、再度展示いたしますので、お出かけの際には、ご覧いただければと思います。

“備えあれば、憂いなし”

ぜひ警報器を設置いただき安心の生活を。

### 「冬来たりなば春遠からず」

大代南区 星 繁子

「冬来たりなば春遠からず」この序文を幾百回唱えただろうか？自分の人生にも重ね合わせた応援歌でもあります。戦時中の姉と二人の下宿生活で食べられる物、着る物無い無いづくし。寒い暑い空腹で泣言を言う私に読書の好きな姉はこの文を教え慰めてくれました。今、八十歳を過ぎてその時の情景が思い出され頑張らせてくれます。そして、今ある幸せに感謝し、一日一日を大切に生きようと思う二十三年です。

さて、去る一月八日、大代公民館で行われた「新年を祝う会」に体は不自由ですが未だ行ける！と元氣よく出席いたしました。楽しい一時をありがとうございました。公民館の方々始め実行に当たられた皆さん

ご苦勞様でした。遅れ馳せながら感謝申し上げます。

その中で一つ気になることがありました。それは、大代公民館の管理運営が地域に移行されるとの件です。

私の遠い記憶では、もともと公民館は柏木(今は大代一丁目になっています)にあり、地域団体の集会は勿論のこと、そろばん教室、書道教室が子ども対象に行われ夕方になると子ども達で賑わい、家庭では忙しい夕飯の支度の時間に大人も助かりました。

今考えるとそれ以上に子どもの社会性や頭脳の発達に大変良いことだったと思っております。その後現在の場所に移され平家建てで常時管理人が住まいし建物の管理に当たっております。

運営は区長さんや大代選出の議員さん達(当時は五人居りました)の中で行われたように思います。その頃の大代は環境も悪く生活もそこそこだったのでスタッフの方々は私財を出しながら住み良い活気のある大代にしようと懸命でした。

熱気が感じられ地域密着型の先人達が懐かしく思い出されます。我が家の義父もスタッフの一員でした。

その後、昭和四十三年頃から県の糞尿処理場の設置が取りざたされ、環境の汚染を案じた区民に猛烈な反対運動が起こり設置の話は進みませんでした。その時に宮城県から出された条件が広い緑地帯(今の緑地公園)を作り空気を汚染を防ぐ事と大代地区に億

単位の保証金を出すことで決着しました。大代地区ではその予算をどう配分するかを考え区民と幾度も相談した結果、一時金で配分すると見えなくなるので新しく近代的な公民館を設置しようという意見がまとまり、旧公民館は取り壊され、また、足りない部分の敷地は廻りを買収し現在の公民館が実現したかに思います。

その後運営管理は市に移行され館長さん職員さんも市から派遣され、コミュニティの拠点として事業を展開していただいております。「ふれあい」発行もその一部で最初はこんなに長く続くとは思いませんでした。第一号は謄写版ずりでしたから、歴代の公民館の方々のご協力があり、区民の皆さんの努力があり続けられたと理解しております。

二年後の移行に当たり関係される皆さん大変でしょうけど先人達の心意気を引き継いで地域にあったコミュニティ活動を切に望む者です。

前記の記事は、私の記憶の中で確かではありませんが参考になればと書かせていただきました。「当たらずとも遠からず」位にご理解いただければ幸いです。

### 多賀城市東部地域

#### 包括支援センターより

はじめまして、多賀城市東部地域包括支援センターです。

私たち地域包括支援センターとは、地域で暮らす六十五歳以上のみなさんの介護、福祉、健康、医療などの総合相談窓口です。多賀城市内には三つの地域包括支援センターがあり、大代地区は東部地域包括支援センターが担当しています。

身体の事などで心配なことがあったり、「最近、おじいさん元気がない」、「何日間も洗濯物を干しっぱなしの家がある」、「近所のおばあさんに家族が会わせてくれなくなつた」等、気になる事があればお気軽にご連絡ください。

【住所】 多賀城市下馬5丁目4-26  
下馬郵便局の向かい側にあります。  
【電話】 36314055

お電話での相談も受け付けております。お気軽にご連絡ください。

### 大代の歩み(三十六)

大代南区 渡邊 巖

文久三(一八六三)年になると、藩は検地をやり直して年貢を増やす計画に代わって、米価騰貴で軽減化している年貢を、金納から米納に変えて金納額も引き上げ、さらに定免(安く固定された年貢高)の破棄も決定した。

不満は藩権力内の抗争に波及し、役職の解任・罷免・逼塞などの肅正があり、藩主が意図した軍政改革もこうして挫折する。

造艦や洋式訓練も中止されたが、打撃を受けた領民の生活の立て直しはそう簡単ではなかった。

こうした経済の混乱は、奉行人や日雇人または小規模な自・小作農の人達にはどうしても食料の一部や全部を購入する必要から不利に働き、売れる余力の有る農民には有利に働くため貧富の差は増々拡大する結果を生み出す。黒船の来航による外国からの圧力は、こうして社会の底辺にまで矛盾を拡大していったが、この様な社会状況の中で明治の内乱は始まった。

慶応四(一八六八)年の一月三日、京都の鳥羽・伏見で、旧幕軍と薩長連合の倒幕軍との間で砲火を交えたが、それ以前から京都守護職であった会津藩も旧幕軍として参加した、いわゆる戊辰戦争である。

当時仙台藩は京都に成立し王政復古を宣言した天皇政府から、戊辰戦争の旧幕軍で「朝敵」とされた会津藩の征伐を命じられていたが、その様子を高橋村に知行地を持つ藩士(給人)と同村の肝入りとの間に交わされた書状で、会津方面へ出陣を命じられてその費用の調達を求めている。例えば、緊急出陣に備えての軍用金の準備、軍用金の調達に要する年貢米の納入請求、兵糧用米追加駄送要請などである

続く

### 大代地区公民館

#### 地域拠点化計画について(六)

大代地区公民館の管理・運営移行の五回目の検討委員会が、一月二十五日に開催されました。

今回もグループ形式で、今までの意見を総合し、今後の公民館運営の形をさらに深く意見交換しました。

次回の検討委員会は二月二十二日に開催が予定されています。

(二月十八日現在)

### 大代地区公民館まつり

○作品展示 3月12日(土) 午後1時～午後5時  
3月13日(日) 午前9時～午後3時

- ・大代水墨画サークル ・パッチワークサークル
- ・八光書道サークル ・大代ペン習字サークル
- ・創美会(油絵) ・華道サークル ・山茶花大学
- ・切り絵サークル ・パンアートフジ大代教室

○舞台発表 3月13日(日) 午前10時～  
午後1時11分

- ・大代剣道教室 ・サークル「ゆり」 ・湧気会(太極拳)
- ・花夢花夢Ⅰ・Ⅱ ・サークルはなみずき(大正琴)
- ・樹峰会(日本舞踊) ・暁流仙台南支部(日本舞踊)
- ・吉乃会(日本舞踊) ・大代南婦人会カラオケ部会
- ・あじさい(カラオケ) ・アカシア会(カラオケ)
- ・カトリア(カラオケ) ・靖善会かしわ(カラオケ)

### ふれあい俳句

大代西区 藤田 遊子

(奥の細道を辿る 前編)

よその子もおとそ頂く ひなの家  
行く春やかこのかけ声 かすみをり  
東照宮 鳴くまで待てば 風薫る  
なつかしや 庵は変らず 夏木立  
西行も 芭蕉も愛でし 柳かな  
陸奥の 田植ゑの唄は 消えにけり  
笠島は ここよここよと 五月道  
草鞋の緒 あやめ祭 なりにけり  
梅雨晴間 光を放つ 光堂  
涼しさを 我もねまるや 尾花沢

笠神西区 本郷 勝子

斜陽館 床黒びかりり 牙返る  
冬の波 サーフアーひとり ながめおり  
早春の お日様キラキラ 昼さがり  
フロントに 写る雲行 春めきり  
つるし雛輪に 幸わせを集めおり

八幡 森 季子

七日粥 以来野草を 食す癖  
雪吊りの 加賀訪れて ふた昔  
大寒を 切り裂き始発 電車かな  
城跡の もぐらやぐらや 春さざす  
強東風や 室内犬の 怯えたる